

第3回 (平成3年度)

建設大臣賞

都市計画道路 鴨川東岸線整備事業 (京都市)

■表彰対象者：京都市建設局

表彰の理由

鴨川の河川改修に併せ、京阪本線を連続立体交差化事業として地下化し、その上に琵琶湖疏水を暗渠で構築し、地表を鴨川東岸線として建設するという3層構造を採用しており、用地の高度利用を図るとともに、南北幹線道路を整備することにより交通渋滞の緩和、周辺市街地の活性化に貢献した。また、歩道には緑地帯や琵琶湖疏水の水を利用した「せせらぎ」を設けるなど、ゆとりと潤いのある都市空間の創設に貢献した。



三条通～四条通 南を望む

事業のあらまし

都市計画道路「鴨川東岸線」は、連続立体交差化事業によって地下化した京阪本線の跡地に、新たに南北を結ぶ都心軸として整備した。

慢性的な交通停滞に悩む南北主要幹線の東大路通や河原町通の交通量の軽減とともに、国道1号や四条通などの東西主要幹線の道路機能を回復させ、都市の活性化と地域環境の改善を図ることを目的とした。

- 延長：3,270m
- 幅員：24m～36m（基本幅員：24m）
- 全体事業費：2,058百万円
うち街路事業費：2,058百万円
- 事業実施期間：昭和59年度～63年度



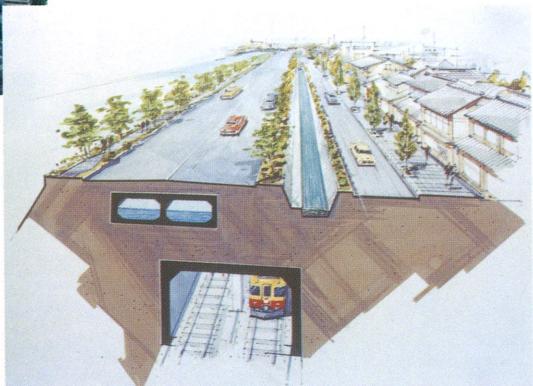
航空写真



三条通～四条通 南を望む



鴨川東岸線東側歩道



鴨川東岸線 琵琶湖疏水京阪地下線バース



せせらぎの道 南を望む

事業の効果

鴨川東岸線の開通は、市街地の東部に位置する南北幹線道路の交通量の飛躍的な増大を可能にした結果、単に河原町通や東大路通の混雑緩和に寄与したばかりでなく、更に西に位置する烏丸通にまで影響が及んでいる。

また、南北幹線道路の交通の流れがスムーズになったことに伴い、大和大路通、花見小路通、木屋町通等細街路の通過交通を減少させ、周辺市街地の生活環境にとっても好影響をもたらした。

以上のように、都市計画道路「鴨川東岸線」の整備は、慢性的な交通混雑に陥り、道路機能の低下が著しかった東西、南北幹線道路を有機的に結び付けることによって、都心部における交通環境の改善に大きく寄与することができた。